

# お口の健康

## 第32回 妊娠中の歯科治療



妊娠中の女性は、ホルモンの影響により虫歯、歯肉炎などのトラブルを起こしやすいものです。さらに、妊娠期の歯周病は早産・低体重児出産の危険リスクになり、虫歯は生まれてくる子供の虫歯リスクを高めることとなります。今回は妊娠中の歯科治療について、良くある質問を中心に説明いたします。

Q 現在、妊娠初期です。歯科治療できますか？

A 急性症状がある場合は別ですが、できるだけ安定期（5〜9ヶ月頃）に治療することをお勧めします。

Q レントゲン撮影はお腹の赤ちゃんに影響しますか？

A 赤ちゃんへの被爆の影響は全く無いに等しいことがわかっています。歯は、お腹から離れているうえ、撮影時に鉛の防護エプロンを着ていただきますので、お腹の赤ちゃんの被曝量は限りなく0に近いのです。



妊娠中ですが、治療できますか？

Q 麻酔注射は、お腹の赤ちゃんに影響しますか？

A 影響しません。歯科治療で使用される局所麻酔薬は通常の使用量では、おなかの赤ちゃんに影響もなく安全に使用できます。しかし、妊娠中の歯科麻酔や外科処置は最小限にとどめたいものです。

Q 抗生物質などの薬を服用しても赤ちゃんに影響しませんか？

A 抗生物質ではペニシリン系やセフェム系が、鎮痛薬はアセトアミノフェン（カロナールなど）が安全であることが産婦人科医の見解で明らかになっています。必要な場合は、最小限で使用することをお勧めします。

Q どんな治療でもできるのですか？

A 歯石除去や虫歯治療などの通常の処置は可能ですが、緊急性が無い外科処置は避けるべきでしょう。ただし、出産まで放置すればさらなる強い症状が出ると予想される場合は、妊婦の方の状態を考慮した上で行うこともあります。本来、妊娠以前より予防・治療はしておくべきであり、妊娠中の歯科疾患の多くは、きちんとした管理ができていれば悪化することはありません。尚、受診の際は、産婦人科医から注意を受けていることがあれば、伝えてください。また、楽な姿勢で治療を受け、もし体調・気分が悪くなったら遠慮なく伝えてください。

湯沢市・雄勝郡  
歯科医師会

ホームページ：  
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>